

# News Letter

第14号 Mar. 2017

## 農研機構 エンカレッジセミナーを実施しました

3月10日に初のエンカレッジセミナー「みんな元気に！多様なキャリアについて考えてみませんか？」を実施しました。参加者は、第1部57名（配信先含む）、第2部18名、第3部20名でした。

### 第1部 「先輩に学べ！ 農研機構の歩き方」

女性一般職・研究職の先輩の味わい深い言葉を紹介します。

#### 「活かしてナンボ！活かされてナンボ！！」

松本 正枝 氏（次世代作物開発研究センター 情報専門役）

- 組織の中で、自分の役割を果たすことが仕事。家に例えると、私たちはネジ。壁・柱、何を支えるかはオーナーが決めるが、きちんと役割を果たせば強い家になる。役割は人から与えられるものと捉えず、役割を楽しむと良い。家の全体を見て、活かしたり活かされたりする居場所を考える。（実際に自らの手で建てた家も紹介されました）
- 法・規程・規則は、規制だけではなく、権利を守るためにもある。その目的を理解し、根拠を知ること、雑念を切り捨て、判断できる。
- 元気な時は良いけれど元気がない時に思いつける話がポケットにあるといいと思う。



#### 「国際婦人年の採用から－35年間で経験してきたこと」

勝田 眞澄 氏（北海道農業研究センター 所長）

- 自分は研究者であっても管理職となっても生産現場との繋がりが実感できた時にモチベーションが上がる。研究者と管理職では達成感の質に違いはあるが、いずれのポジションでも好奇心が満たされ、現場と繋がる充実感を感じながら仕事を楽しくてくれた。



- 研究の分野変更があったが、稲生育調節剤研究では植物の反応を見る目を養い、ジーンバンクでは遺伝的の広がりを実感し、資源作物育種で実際の品種開発に繋げることができた。同じ研究を続けることで停滞するならば、分野を変えて生まれる研究の切り口もあり、ステージアップもできた。
- 30代では自分の研究の強みを探して構築することに苦勞し、自分の「看板」となるものを探していた。40代で研究室長となって「覚悟」ができた。ホームランはなくとも、小さなヒットを積み重ねることができ、現場で必要とされる研究成果を出せた。その後も立場が変わる中で、それぞれに「覚悟」をしてきた様と思う。

参加者からは、「仕事をしていく上での気持ち・モチベーションの持ち方・考え方がわかった」、「心に響く話が良かった」、「今よりも厳しい時代を先輩が前向きに楽しそうに受け入れ、進んだ姿に勇気をもらいました」などの感想がありました。

### 第2部 ランチョンセミナー

和やかな雰囲気の中、仕事と子育ての両立のコツなどを話題に懇談しました。



### 第3部 自分のモチベーションタイプを知って、将来を考えよう

価値観カードを用いて自己のタイプを知った上で、自分の未来図を作成をしました。4時間が短く感じるほどの充実した内容のワークショップでした。



■講師 川村 貴子氏  
 NPO法人雇用人材協会 登録講師  
 キャリアカウンセラー

参加者からは、「自分を客観的に分析できて良かった」「自己のモチベーションタイプを知ることによって、迷っていた他者との関わり合いも良く判ったので、今後の仕事に対する意識を前向きに変えられて良かった」「ワークとライフの両方で活かせる内容でした」と好評でした。

## 第3回男女共同参画セミナー（幹部職員向け）を実施しました

幹部職員向けのセミナー「アサヒビールにおけるダイバーシティ推進の取り組み」を実施しました。

- 参加人数  
55名（会場 52名／Web配信(3カ所) 3名）
- 日時 平成28年11月25日(金) 10:10～11:10
- 場所 食と農の科学館 オリエンテーションルーム
- 講師 山岸 裕美氏（農学博士）  
アサヒビール株式会社 理事、  
経営企画本部 製品保証センター所長



参加者からは、「特別な施策なしにダイバーシティが保たれている状況は適正なゴールだと認識した」「ぜひもっと多くの若い方にも聞いて欲しい」「女性としての立場に限らず、研究者のキャリアアップの事例としても参考になった」などと好評でした。

## 女性研究者キャリアデザイン研修を実施しました（東北農業研究センター）

農研機構 東北農業研究センター、北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議の共催で、研修会を開催しました。

講義、個人ワーク・グループワークおよびそれらの全体でのシェアを通して自己分析およびキャリアビジョンの設定とプランニングを行いました。

- 対象  
「北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議」  
構成機関の女性研究者
- 日時 平成29年3月9日(木) 9:30～17:00
- 場所 東北農業研究センター H棟 大会議室
- 講師 原 恵子氏 産業カウンセラー



## 女性活躍推進法に基づく認定マーク「えるぼし」（最高位の認定段階3）を取得しました



農研機構は、平成28年4月1日に施行された「女性活躍推進法」に基づき、厚生労働大臣から女性の活躍推進に関する状況等が優良な「えるぼし」企業として、平成29年1月25日に認定を受けました。

## 研究職員の研究支援要員雇用に係わる経費の補助の募集を開始しました <平成29年度第1回>

育児・介護に関わる研究職員の負担を軽減し研究の継続に資するため、研究支援要員（契約職員）を雇用する経費を補助しています。（育児休業を取得または予定している、または中学校就学前の子につき、主として育児を行う男性研究職員を含みます）

### ●締切り：4月7日(金)まで

申請者は対象者の所属長（領域長等）とします。

申請者は対象者と相談し、男女共同参画推進責任者（研究センター等の長）に連絡の上、女性研究者支援担当者を通じて、

**様式1**を男女共同参画推進室に提出してください。

様式1は、「男女共同参画ポータルサイト」からダウンロードできます

※「男女共同参画ポータルサイト」は職員専用サイトです。

## 「NAROかるた」を作成しました

一般公開などのイベントで、親子の触れ合い学習等ができる機会を提供し、農研機構の品種や技術をPRするツールとして、「NAROかるた」を企画・作成しました。

読み札を職員から募り、10研究センター、5研究部門から362点の応募がありました。

農研機構つくば地区の一般公開（4月21・22日開催）にて、このかるたを使ったイベントを予定しています。



## 幹部職員からの「男女共同参画推進へのメッセージ」を発信しました

幹部職員の男女共同参画推進への想いをメッセージに込めて発信しました。男女共同参画推進サイトにも掲載しています。

### 理事長メッセージ

#### ダイバーシティの推進で農研機構の活性化を目指す



農研機構では、多様な人材がそれぞれの持つ力を十分に発揮して、社会貢献できるような職場環境の創造を目標に、男女共同参画を推進しています。性別・国籍・宗教・人種等で採用・処遇に差別があってはならないことはもちろんですが、多様な人材を求めるのは、ダイバーシティ（多様性）が組織と研究の活性化に結びつくからです。わが国でもダイバーシティという言葉が一般的になってきました。昔から農業・食品産業では女性が重要な役割を果たしてきましたが、食と農の研究開発においても女性の視点から進めることが重要です。また、農業の国際化に対応し研究水準を高めるためには、外国人の視点も求められます。男女共同参画を基本とするダイバーシティを推進し、全ての職員がいきいきと活躍し、創造力があふれ、風通しの良いコンプライアンスのしっかりとした揺るぎない組織を目指しましょう。

理事長 井邊 時雄

### 推進責任者等からのメッセージ

#### ガラスの天井を外した風通しのよい農研機構へ

（副理事長 佐々木昭博）

#### よい仕事は、私生活の充実・満足による気力・体力から

（理事 長田 朋二）

#### みんなが働きやすい職場を目指しています

（理事 村上ゆり子）

#### 積極的格差是正措置の考え方を理解し支持します

（東北農業研究センター所長 石黒 潔）

#### 男女共同参画とライフワークバランスを核とした働き方を

（西日本農業研究センター所長 竹中重仁）

#### 充実した仕事と私生活の両立を応援します！

（九州沖縄農業研究センター所長 栗原光規）

#### 多様な人材が組織の活性化につながる

（野菜花き研究部門長 本多健一郎）

#### 意識しないダイバーシティで、健全な組織と活動へ

（農村工学研究部門長 山本徳司）

#### 皆さんの積極的な取り組みにより、

男女共同参画社会を実現しましょう

（食品研究部門長 鍋谷浩志）

#### 三つ星「えるぼし」の獲得を目指してがんばろう

（リスク管理部長 袴田泰三）



**女性の優れた能力を見落とすことなく正しく評価したい**

(中央農業研究センター所長 梅本 雅)

**子育て、介護にやさしい職場**

(次世代作物開発研究センター所長 矢野昌裕)

**互いを尊重した職場と家庭を育みましょう！**

(農業技術革新工学研究センター所長 藤村博志)

**だれもが力を発揮し、輝けるように！**

(果樹茶業研究部門長 櫻村芳記)

**風通しの良い、明るい職場を目指しましょう**

(遺伝資源センター長 根本 博)

**多様性こそが活力を生み出す。そして、面白い**

(種苗管理センター所長 植木 隆)

**多様性と自由な考えを認めあい、職場を活性化**

(食農ビジネス推進センター長 坂井 真)

**支えあう気持ち、職場でも、家庭でも**

(本部企画調整部長 住田弘一)



**相手を慮る心 職場でも家庭でも**

(理事 新本英二)

**想像力と思いやりで、多様性が活きる環境を育てたい**

(北海道農業研究センター所長 勝田眞澄)

**多様性は自然界でも人間社会でも大切です**

(農業環境変動研究センター所長 渡邊朋也)

**子供は社会の宝**

(畜産研究部門長 島田和宏)

**どんなときでも相手を大切に思い、自分を大切に思う**

(動物衛生研究部門長 坂本研一)

**多様な人材そして協同**

(生物機能利用研究部門長 門脇光一)

**女性生き生き，機構も生き生き**

(高度解析センター長 大谷 卓)

**多様なヒトが触発し合い、明るい未来を築く農研機構**

(本部人事部長 本田善文)



平成28年12月1日

